



- ◇2021 年度定時総会の報告 …… 1 頁
- ◇新会員の紹介 …… 2 頁
- ◇第 13 回 NAED 地域づくりシンポジウム開催報告 …… 3 頁
- ◇室生深野 モリアオガエルの個体観察 …… 6 頁

### 一般社団法人 地域づくり支援機構 2021 年度定時総会の報告

堀越 正夫(地域 P&C 第 3 期/専務理事・事務局長)

6 月 5 日(土)、大和高田市文化会館(さざんかホール)レセプションホールにおいて、「一般社団法人地域づくり支援機構 2021 年度定時総会」を開催いたしました。

以下のとおり、総会は成立し、議案は決議されましたので、ご報告を申し上げます。

#### 1. 総会の成立

総会は、正会員 71 名に対して、出席会員数 46 名(本人出席 23 名、委任出席 23 名)と、過半数の出席により成立いたしました。

#### 2. 総会議案議決について

- ①第 1 号議案 2020 年度事業報告並びに収支決算承認の件:原案どおり承認可決されました。
- ②第 2 号議案 2021 年度事業計画並びに収支予算承認の件:原案どおり承認可決されました。
- ③第 3 号議案 役員選任の件:原案どおり承認可決されました(下表参照)。

役職名	氏名	資格	備考
理事長	村田 武一郎	地域プランナー・コーディネータ	奈良フェニックス大学学長
副理事長	井ノ本 直三	地域プランナー・コーディネータ	
専務理事	堀越 正夫	地域プランナー・コーディネータ	事務局長
理事	野口 隆	地域プランナー・コーディネータ	奈良学園大学特別客員教授
理事	大塚 徹	地域プランナー	渉外部長
理事	北森 義卿	地域プランナー・コーディネータ	
理事	吉田 遊福	地域プランナー・コーディネータ	
理事	今西 弘子	地域プランナー・コーディネータ	
理事	若林 稔	地域プランナー・コーディネータ	地域 P&C 養成塾塾長
理事	金原 薫	地域プランナー・コーディネータ	
理事	中谷 みさこ	地域プランナー・コーディネータ	事務局会計、SDGs 部会長
理事	神 剛司	地域プランナー・コーディネータ	地域 P&C 養成塾塾頭
理事	中辻 孝之助	地域プランナー・コーディネータ	地域 P&C 養成塾塾頭
理事	吉井 辰弥	地域プランナー・コーディネータ	SDGs 部会長
監事	北 紀英	地域プランナー	
監事	笹野 義一	地域プランナー	

- ※1) 阪口博明理事、吉村耕治理事が退任され、新理事として吉井辰弥氏が就任されました。2021 年度以降の事業については、現役員はもとより、新役員の吉井辰弥理事の協力のもと運営していく予定です。会員の皆さまにおかれましては、ご参画・協力をよろしくお願い申し上げます。
- ※2) 事務局ならびに地域 P&C 塾は、下記のメンバーとなっています。  
 事務局長:堀越正夫、事務局次長:中辻孝之助、渉外部長:大塚徹  
 会計担当:なかたにみさこ、広報担当:東千恵子、布川拓海  
 地域 P&C 塾塾長:若林稔、地域 P&C 塾塾頭:神剛司、中辻孝之助

### 3. 地域P&Cの認証式

総会終了後、地域P&C(第13期)の認証式が行われ、7名の仲間が誕生しました。午後の第13回地域づくりシンポジウムにおいて、彼らの活動報告が行われました。



#### 新地域プランナー・コーディネータ認証式

左から、村田理事長、新地域P&Cの向井靖博氏、柴田三乃氏、松村貴史氏、安藤優史氏、角田華子氏、後岡道雄氏  
(中村伊都子氏は所要により欠席)

### 新会員の紹介

神 剛司(地域P&C 第3期/第13期P&C 養成塾塾長)

6月15日の総会で新たに地域プランナー・コーディネータに認定された皆さんを紹介します。昨年度同様、新型コロナウイルスの影響もあって厳しい一年でしたが、無事にカリキュラムを終了し、認定試験を晴れて合格された方々です。

#### ○向井靖博(むかい やすひろ)さん

向井さんは、山添村の集落支援員です。参加目的は、山添村の事情だけでなく、他の市町村の現状なども見て、広い視野からの地域づくりを考えたいということでした。P&C塾で、多様な視点を得ることはできたのでしょうか。村の仕事で草刈や田んぼの世話などの行事で出席できない日もありましたが、シンポジウムでは、メンバーを集めて、扎扎实り山添村の活性化につながる提案をされていましたね。これからも山添村の元気のために頑張ってください。

#### ○柴田 三乃(しばた みつの)さん

柴田さんは、大学非常勤講師(通訳・英会話)、一般社団法人ブレンド one の代表理事をされています。参加目的は、具体的なプロジェクトの立て方や地方自治体へのアプローチの仕方などを学びたいということでしたが、何か得るものはあったでしょうか。いつも優しく寛大な人当りで、まるで13期のお母さんのような存在でした。長期の海外在住の経験もあり、日本の文化にも造詣があり、これから奈良と外国との懸け橋になっていただける方だと思います。

#### ○松村貴文(まつむら たかふみ)さん

松村さんは、企業人としての参加でした。目的は地域づくり活動を行いながら、まちの賑わいを実現していく方法を習得し、地域で活躍されている方々の取り組み事例等を学びたいということでした。志を同じくする人たちとの意見交換をしたいという様子でしたが、グループワークなどを通じてそれは実現できたのでしょうか。当初は飄々として静かな印象でしたが、次第に、熱い何かを胸に秘めた方だと感じていました。

#### ○安藤 優史(あんどう まさし)さん

安藤さんは、現在、笠置町地域おこし協力隊員です。養成塾への参加目的は、地域貢献に関する知識を得たこと、具体的な地域づくり活動の経験をしたいからでした。炎天下、寡黙に阿伽陀屋若林亭の庭の石を運んでいた姿が印象的でした。汗をかくことをいとわず誠実な安藤さんは、どんな地域でもファンができ、特に年配者

に受け入れられる方だと思います。あなたの魅力でお年寄りをどんどん味方につけてください。シンポジウムのリーダー役、お疲れさまでした。

### ○角田華子(かくた はなこ)さん

角田さんは十津川村の地域おこし協力隊員として活躍され、マスコミにもよく取り上げられていました。参加目的は、他の地域の人と交流して、成功・失敗体験から学びたいでした。いつもバイタリティ溢れ、行動力のある角田さんは、つい先日、国境を越えて愛を育まれ、ゴールインされました。誠におめでとうございます。ご夫婦の多様な視点を今後活かしてください。シンポジウムの司会やプレゼンテーションは、堂々としていてとても頼もしかったです。遠くからのP&C塾への参加、お疲れさまでした。

### ○後岡 道雄(うしろおか みちお)さん

後岡さんの参加目的は、新たな出会いを通じて刺激や新たな知識、考え方を得たい、スキルアップしたいでした。後岡さんは、もともとデザイン関係の仕事をされていて、編集能力はピカイチでした。また若林理事の薫陶をしっかりと受けて、人的ネットワークをどんどん広げ、活動も多彩になっていきましたね。第13期P&C塾の影のリーダーとして様々に頑張ってくださいました。

### ○中村伊都子(なかむら いつこ)

中村さんは、北米の大学生に日本語・日本文化を教える仕事をされていて、参加目的は、地域づくりの現場に関わっている方々から生の声を聴き、学ぶこと、留学生が参加できる活動の場づくりをするうえでの地域との連携を円滑にするためのコミュニケーション能力を向上すること、そして今井町とのさらなる連携の形を模索することでした。積極的に発言もされ、とてもエネルギー溢れる方が入られたなあという印象でした。残念ながら、後半は仕事の環境が変わり、欠席されることが多くなりましたが、教える立場としてもさぞ辛かったろうと推察します。それでもP&C認定試験にパスされたのは流石です。今後は、アフターコロナに向けて、今井町とNAEDとのつながりを深めていっていただければと思います。

第13期地域P&C養成塾の皆さまは、NAEDの地域プランナー・コーディネータの資格を今後のご活動に利用してください。人は一人では何もできません。まずは同期のつながりを大切にしてほしいものです。何か困った時には、いつでもP&C塾を覗いていただければと思います。

会員のみなさん、このように第13期生7名が新たに私たちの仲間になりました。どこか地域づくりの場で会う機会がありましたら、ぜひ温かい言葉をかけてあげてください。困っていたら、何か知恵を授けていただければ幸いです。

## 第13回 NAED地域づくりシンポジウム開催報告

後岡 道雄(地域P&C養成塾13期)

第13期地域プランナー&コーディネータ養成塾(以下、P&C塾と記す)の締めくくりでもある「地域づくりシンポジウム」を、6月5日(土)13:00~16:00に開催しました。

### 1. 地域づくりシンポジウムに向けての課題

第13期P&C塾生の誰もが初めて取り組むイベントです。課題を整理し、役割や計画スケジュールなどを決める作業をNAED事務局の方々と3カ月前からスタートさせました。

いつ開催するのか? タイトル(テーマ)は何にするのか? 会場はどこにするのか? 定員を何人にするのか? どのような方々にお越しいただくのか? どのようなコンテンツ



でいかに進行するのか？ 等々、課題が山のようにあり、P&C 塾の授業日だけでは十分ではなく、関係者のグループメッセンジャーと担当者が入力するスプレッドシートを作成しました。最初に塾生がタイトル案と会場案を提出し、次回の授業で話し合うこととしました。同時に役割と担当者を決め、計画スケジュールも作成し、スプレッドシートに入力しました。

## 2. 担当者の紹介

担当者を紹介します。また、地域づくりシンポジウムに関するコメントも合わせて紹介します。

委員長は、安藤優史(笠置町地域おこし協力隊)で、彼をリーダーとしてシンポジウムに関する話し合いが進められました。彼は、いわば司令塔として、様々な関わりのなかで、時には強く、主導的に、ある時は温かく、周りを信頼しながら継続していくことが大切だと思ったそうです。

会場の手配は、松村貴史(現役銀行員)です。もの腰は柔らかいが、フットワークの良さはピカイチです。会場のことでは何度も大和高田さざんかホールに出向いて、不明点をきめ細かく確認してくれました。以下、彼のコメントです。1)会場の「大和高田さざんかホール」が良かったので、もし来年、場所に困った時にはお奨めです。2)シンポジウム計画から当日まで時間の経過が早かったので、当初から会場の事務局と綿密に打合せを行っていくことが重要です。授業の時間内に話し合いができなかった場合は、塾生同士で十分なコミュニケーションをとり、相談していきましょう。

司会と SNS 配信の角田華子(十津川村地域おこし協力隊)は、とても有能で、既に十津川村でいくつかのプロジェクを進めています。以下、彼女のコメントです。1)限られた期間や条件での開催となりましたが、聞きに来てくださった方たちが予想以上に多く、とてもやりがいのあるシンポジウムになりました。2)すばらしい会場を押さえてくれた仲間から心から感謝します。3)第13期P&C塾の仲間だったからこそ、今回のシンポジウムを実行できたと思えます。4)一年を通して、またシンポジウム開催というイベントを通して、これからの仲間もでき、自分の至らない点も再確認し、とても多くの学びができました。

中村伊都子(外国人に日本語と文化を教える講師)は、コロナ禍で外国人学生が来日できないため、別途受注した翻訳の仕事に忙殺され、シンポジウムに参加できなかったが、一緒に卒業できて良かった、落ち着いたら第13期生のみんなで会いたいとのことでした。

タイムキーパーの向井康博(山添村集落支援員)は、日頃の業務が多忙で、P&C 塾への出席は必ずしも十分ではなかったが、シンポジウムでは重要な役割を果たしてくれました。やるときはやる男です。

ツール制作は、後岡道雄(フリーランス)が担いました。古民家リノベーション、庭木剪定、地域支援、広告制作などを勉強中です。シンポジウムのチラシと案内資料、周辺の飲食店マップを作成しました。時間は十分ではなかったのですが、第13期生の協力もあって、何とか任務を果たすことができました。

交流会担当の柴田三乃(通訳・翻訳・大学非常勤講師)は、海外での生活が長く、食にも精通していて、今回の担当は適任でしたが、コロナ禍の影響により交流会が中止となり、残念でした。以下、彼女のコメントです。1)コロナ禍でのシンポジウムとなり、いろいろと制限が多い中、私なりに充実したシンポジウムができたのではないかと思います。それは、村田理事長をはじめとする NAED 理事の方々、そして先輩諸氏のお陰だと感謝しています。2)私たち第13期生が密に連携しながら準備をしてきたこともシンポジウムを無事終えられた一因だと思います。何かひとつのものをつくり上げるのは一人の力でできるものではないということ、身をもって体験できました。3)この経験をこれからの地域プランナー&コーディネータの基盤として活かしていきたいと思います。

## 3. 地域づくりシンポジウムまでの経緯

3月13日(土)に、開催日、タイトル、会場などを検討しました。開催日は6月5日(土)、タイトルは「?から繋がる地域プロジェクト奈良歩! ゆっくり歩く速度でいいんじゃない! 奈良は広いんだから!」、会場は大和高田さ

ざんかホール(コロナ禍での定員 80 名)に決定しました。

4 月 4 日(日)は、松村氏と後岡が大和高田さざんかホールにて打合せを行いました。会場の広さ、設備や備品、収容人数、搬入・搬出経路、利用料金などを、松村氏がシートに記入して関係者に報告しました。

4 月 24 日(土)に、シンポジウム案内チラシが完成し、プレスリリースを開始しました。

5 月 8 日(土)は、安藤氏、松村氏、後岡が、NAED の吉田理事、中辻事務局次長・P&C 塾塾頭に同行いただき、大和高田さざんかホールにて打合せを行いました。設営のレイアウト検証、支払方法、コロナ禍による無観客開演に備えての Live 配信や YouTube 配信などについて確認しました。その後、周辺の飲食店と交流会会場の視察も行いました。

5 月 28 日(金)は、コロナ禍のもとでのシンポジウム実施の可否を最終決定するタイミングでした。シンポジウムは開催、交流会は中止となりました。柴田氏は交流会のキャンセルに走り、後岡はスタッフ弁当の手配を行いました。

6 月 2 日(水)に、後岡は城者氏(P&C 塾第 5 期生)と大阪湾での活動展示の最終打合せ、松村氏と柴田氏はクラフトビールづくりの石井氏(P&C 塾第 11 期生)と展示の最終調整、角田氏は十津川村を PR する展示ブースの調整を行いました。

#### 4. 地域づくりシンポジウム当日

シンポジウム当日は、朝 8 時、阿伽陀屋若林亭に集合し、若林理事の指示のもと、安藤氏と後岡は前週に準備していた備品を車に積み込んで会場へと向かいました。大和高田さざんかホールに着くと、吉田理事、中辻塾頭、柴田氏、松村氏、角田氏、石井氏、宮下氏(P&C 塾第 12 期生)がすぐに到着されました。

9 時に会場に入り、各々作業に取りかかりました。安藤氏と中辻氏はプロジェクターとパソコンを設営、若林理事と松村氏は舞台上の看板にタイトル文字を取り付け、NAED 会員も数人来られ、手分けして会場の設営作業が行われました。みんなの協力もあって予定より会場の設営が早くできあがりしました。

10 時に NAED の総会が始まり、受付は中谷理事と中島氏(P&C 塾第 12 期生)が担当されました。P&C 塾第 13 期生は、総会を聴講しました。

総会の後、P&C 塾第 13 期生は、壇上にて、村田理事長から認定証をいただきました。心が引き締まる思いでありました。

12 時 30 分にシンポジウムの受付を開始し、P&C 塾第 13 期生は、少し緊張しつつ配置場所につきました。

13 時、角田氏の司会でシンポジウムが始まりました。実行委員長の井ノ本氏(NAED 副理事長)からの開会あいさつに続き、若林理事が「視点を変えれば地域は宝の山ーコロナは追い風！ー」と題して基調講演を行われました(写真上)。その内容に、私たち塾生は勇気をいただきました。

基調講演後の展示ブース(大阪湾での活動展示、クラフトビールづくり、十津川村の PR)も、とても盛況でした(写真中)。

14 時 40 分から、奈良フェニックス大学の石丸十五子様と佐々木恵美子様「発展する矢田の活動」、竹下米子様と近藤登様が「皆が胸を張って暮らせるまちづくり」を紹介されました。実際に地域づくり活動を行っておられる方々による、真摯で臨場感あふれる活動紹介は、私たちに大いなる刺激をくださいました。

いよいよ P&C 塾第 13 期生の発表です。向井氏、松村氏、後



岡は、「廃校カフェ～みんなの母校が蘇る～」について、緊張しながらも、思いを伝えました。続いて安藤氏、角田氏、柴田氏、(メンバーの中村氏は都合により欠席)が、「五感を通して学ぶ日本の文化～ほんまもん～」の発表を行いました。今後の活動への高い意識が感じられました。

4件の活動紹介・発表の後、村田理事長から総評をいただき、シンポジウムは閉会しました。参加人数は64名。NAED 会員 35 名(第 13 期 P&C 塾生 6 名を含む)、奈良フェニックス大学 9 名、一般の方々 20 名でした。

## 5. おわりに

今回のシンポジウムを通して、ひとつの目標をみんなの協力で、補い助け合って成し遂げることの難しさと同時に、おもしろさも感じ、メンバーの人となりも見え、第 13 期 P&C 塾生で良かったなと思いました。良い経験となりました。今後の地域支援や地域づくり活動に活かせたらと考えております。

最後に事務局の方々、今回の原稿をまとめるにあたってご協力いただいた第 13 期 P&C 塾生の方々、「皆さま、ありがとうございます」。心から感謝します。本当に良い仲間と出会うことができました。

## 室生深野 モリアオガエルの個体観察

宮下 和之(地域 P&C 第 12 期)

宇陀市室生深野地域では、NAED の助成金を得て「モリアオガエルの保護増殖活動」を続けている。モリアオガエルは、奈良県では「絶滅寸前(絶滅危惧種 I 類)」の指定を受けている希少種である。室生深野のモリアオガエル生息地において、産卵期に本種の成体の観察を行った。

過去の観察から、6 月中旬頃が産卵の最盛期とのことであったが、今年は、産卵のピークが 2 回(5 月下旬頃と 6 月中旬頃)見られた。今年の梅雨入りが 5 月 16 日頃と平年より 20 日ほど早かったことが影響した可能性があり、例年よりも長い期間、産卵期の観察ができたのではないかと思われる。

調査は、生息地域からの、産卵の情報を受けて、現地を確認した後、夜間調査を 1 回、日の入り前後の夕方の調査を 2 回実施した。

一般に、モリアオガエルは、夜行性で日中はあまり活動しないため、個体の発見は難しく、夜間に盛んに鳴き、産卵行動が観察できるとされる。

観察の結果、昼間の晴れた日はあまり鳴き声も聞かれなかった。一方、湿度の高い夜間は盛んに鳴き、活動している個体が観察できた。また、雨の日であれば、昼間でも鳴き声や個体の観察が可能であると考えられた。

モリアオガエル生息の保全をとおして、地域の活性化や子どもたちに自然の大切さを体験できる場になることが期待される。一方で、なかなか個体が観察しにくいことが問題点でもある。今回の観察から、時期や天候等の状況によっては、夜間や昼間でもモリアオガエルの個体に、目視で触れ合うことが可能であることがわかった。

表. モリアオガエル個体観察の結果

観察日	観察時間	天候	観察状況
2021 年 5 月 25 日	事前確認 14:00～15:00	晴れ	・ 産卵の情報を受けて現地確認(調査時に鳴き声なし)
5 月 28 日	夜間観察 17:30～21:30	曇り	・ 日の入り頃(19 時前後)から盛んに鳴き始める。 ・ 20 時以降、池の周囲の地上や樹上で、オスと思われる合計 6 個体を目視にて確認
6 月 11 日	夕方観察 16:30～18:00	晴れ	・ 若干の鳴き声を確認 ・ 個体確認できず
6 月 15 日	夕方観察 15:30～17:30	曇り後雨	・ 15 時半の時点で盛んに鳴いている状態 ・ 池の周囲の樹上でメス 2 匹、オス 12 匹を目視にて確認

注) 目視で確認できた個体以外に、鳴き声からもっと多くの個体が生息していると推察される。



モリアオガエルの生息地と泡卵



モリアオガエル(メス)



モリアオガエル(オス)